

令和8年9月発行

環境学習推進センター情報誌

第59号

Contents

やまぐち

Well-being

eco サポート

発行元 公益財団法人山口県ひとづくり財団県民学習部

- ◇ 環境学習講座を開催しました
- ◇ 祝！ユネスコ世界ジオパーク認定 Mine秋吉台ジオパークの特徴と楽しみ方
- ◇ みんなで『3R+（ぶらす）』をはじめよう！！
- ◇ 豊かな里海づくりに向けて！ ほうふ里海づくり協議会の取組
- ◇ イベントのお知らせ

環境学習講座を開催しました

令和8年7月9日（木）

循環型社会の形成に向けた取組

【受講者：33人】

循環型社会の形成に向けた山口県の新たな取組や、本県の産業特性を生かした全国に誇れるリサイクルシステムについて学ぶことで、資源循環への理解を深めるとともに実践につなげていただくための講座を実施しました。

午前の講義では、山口県廃棄物・リサイクル対策課主査の中田浩司氏から、県が令和8年3月に策定した「山口県循環型社会形成推進基本計画（第5次計画）」に基づいて、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」※への移行による徹底した資源循環を推進することや、計画に掲げた目標の達成に向けた「3R+（プラス）」※を推進することなど、県民の皆様には是非実践していただきたいことを丁寧に説明されました。【※くわしくは3ページ目】

午後からは、山口エコテック(株)と(株)トクヤマ南陽工場を視察しました。山口エコテック(株)では、県内すべてのごみ焼却施設から排出される焼却灰等を無害化処理し、セメント原料化する事業を展開しており、(株)トクヤマではこの原料も活用しながらセメントを製造されています。この事業は、(株)トクヤマ、宇部興産(株)（現UBE三菱セメント(株)）と山口県等が連携して、全国で初めて構築したシステムであり、環境負荷の低減と資源循環に大きく寄与しています。

受講者の皆様は、日常的に出す可燃ごみが、山口県の企業の技術力で資源化されていることに感心され、通常では見ることができない工場内で、担当者の方に熱心に質問をされていました。今後も、県内企業のすぐれた環境関連技術を学習する講座を企画していきたいと考えています。



令和8年7月25日（土）

気候変動に伴う天然水産資源の変化

【受講者：32人】

地球温暖化の進行による天然水産資源の変化について、“気づき”、“知る”ことで気候変動がもたらす影響について考える講座を、水産大学校生物生産学科の高橋洋教授と山口県気候変動適応センターの元永直耕及び恵本佑専門研究員を講師に開催しました。

気候変動適応センターからは、気象観測データを示して、「国は最高気温が40℃以上になる日を新たに“酷暑日”とした。山口県内の真夏日や降水量は、実際に増加傾向にある。」ことなど、その現状や将来予測される影響についてくわしく説明していただきました。その上で、気候が変わることでの被害を最小限に抑えるための「適応策」の必要性や、インターネットで気候変動適応情報を“見える化”して発信する「やまぐち気候変動適応情報プラットフォーム」（YPLAT）など、県の取組を紹介していただきました。

高橋教授からは、「日本海は海水温が上昇するペースが速く、フグ類の漁獲地は15年前の福岡県(1位)、山口県(2位)から現在は北海道(1位)、石川県(2位)に変化しており、その繁殖地の変化に伴う大規模な交雑現象により、雑種のフグが増加している。」と水産資源の変化を説明され、フグの取扱いに不慣れた地域に漁獲地が拡大したため、国は、フグ処理免許の強化など、フグ食の安心・安全の確保の取組を進めていることなどのお話をされました。また、実際にショウサイフグ、ゴマフグとその交雑種の3個体を用意していただき、受講者は、教授の説明を受けながら、見て、触れてその鑑別にトライしました。

気候変動の影響は、自然界の様々なところで確実に起きており、それを守ることや適応方策を考えることの重要性について学ぶことができた充実した講座となりました。



祝！ユネスコ世界ジオパーク認定

Mine秋吉台ジオパークの特徴と楽しみ方

Mine秋吉台ジオパークは、美祿市全域をエリアとし、4月23日に国内で11番目のユネスコ世界ジオパークとして認定されました。

ジオパークとは？

世界で241か所の仲間入り！

ユネスコは、世界的に重要な学術的価値のある地質や地形を有し、それを保全し、教育や持続可能な発展に活用している地域をユネスコ世界ジオパークとして認定します。地質や地形の価値ある「モノ」があるだけでなく、貴重な地質地形・自然・文化遺産を次世代につないでいく活動が行われていないと、ジオパークには認定されないのです。なお、国内には、ユネスコ世界ジオパークの他に、日本独自の日本ジオパークがあります。県内では、萩市を中心とする萩ジオパークが日本ジオパークに認定されています。

Mine秋吉台ジオパークの特徴 ～「白」「黒」「赤」の3色がテーマカラー～

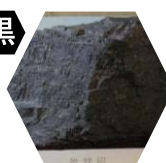
Mine秋吉台ジオパークでは、特徴的な地質・地形を「白」「黒」「赤」と3色で表現しています。「白」は秋吉台や秋芳洞を形作る石灰岩、「黒」はかつての産炭地である大嶺炭田の石炭、「赤」は奈良時代に東大寺の大仏建立の原料となった銅です。これら3色の石たちは、数億年前という遙か昔の地球の活動によって作られました。そして人々は、これらの石たちを採掘して資源とするだけでなく、例えば特徴的な地形を活かして採草地や観光地などとして利用してきました。

白



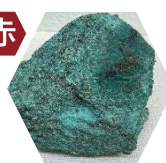
石灰岩
Limestone

黒



石炭
Coal

赤



銅
Copper

Mine秋吉台ジオパークの楽しみ方

Mine秋吉台ジオパークでは、ジオガイドが大地の成り立ちと人々の暮らしとのつながりを楽しく解説する「ジオツアー」を実施しています。特に、「白」の秋吉台・秋芳洞では、予約不要で当日でも参加できるツアーも行っています。数億年にわたる地球と生命の歴史を体感しに、ぜひお気軽にMine秋吉台ジオパークにお越しください。



ジオツアーの詳細はこちら



注目イベント

8月1日[土]

白：石灰岩 開催報告

環境学習講座「洞窟体験&ジオラマづくり！Mine秋吉台ジオパークまるごと体験教室」

秋吉台の地上と地下に広がる特有の自然や文化について学ぶ講座を山口県ひとづくり財団と共催しました。県内の小中学生と保護者の28名が参加し、洞窟内の生き物を探したり、秋吉台のジオラマを作るなど、楽しみながら自然環境の保全と活用のバランスについて考えるきっかけとなりました。



10月25日[日]

赤：銅 開催予告

第19回銅山まつり

会場：長登銅山跡広場
大仏ミュージアム

古代と同じ方法で、銅鉱石から銅を取り出す製錬実験をはじめ、ふいご踏み体験や鑄造体験、木簡体験など、古代の銅生産について楽しく知ることのできる、年に一度のイベントです。

[問合せ] 大仏ミュージアム
(☎ 08396-2-0055)



12月13日[日]

黒：石炭 開催予告

ユネスコ世界ジオパーク認定記念
スミを使ってイモを食う

会場：森の駅ほか

大嶺炭田でかつて採掘された石炭を使って、焼き芋を作って食べます。また、ジオガイドが、石炭の使い方や、石炭の地層に含まれる化石などについて分かりやすく解説します。

[問合せ] Mine秋吉台ジオパーク推進協議会事務局 (☎ 0837-63-0055)



みんなで『3R+（プラス）』をはじめよう！！

循環型社会ってなに？

大量生産、大量消費、大量廃棄が当たり前の生活をしてきた結果、エネルギーの枯渇や地球温暖化、自然環境の破壊など、今、私たちは様々な環境問題に直面しています。

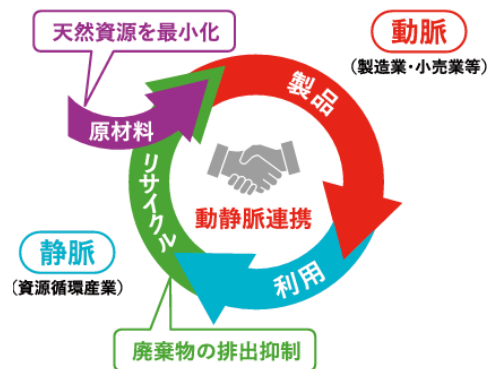
将来も安全で豊かに生活できる社会を守っていくためには、天然資源の消費量を減らして、環境負荷をできるだけ少なくした「循環型社会」の構築が急がれます。

循環型社会に向けてどうすればいいの？

循環型社会の形成には、これまでの3Rの取組に加えて、資源を循環させながら付加価値を生み出す、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」による徹底した資源循環の推進を図ることが必要です。

サーキュラーエコノミー

天然資源の投入量や消費量を抑えつつ、価値あるモノ（ストック）を有効活用しながら付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑制等を指すもの



3R+（プラス）ってなに？

徹底した資源循環に向けては、廃棄物の発生・排出抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3Rに加えて、県民、事業者、行政のそれぞれが、資源循環の必要性をジブンゴトとしてとらえ、できる取組の一つでもプラスして実践することが必要です。山口県では、他の取組をプラスする「3R+（プラス）」をスローガンとして、県民総参加による推進を展開しています。

みんなで「3R+（ぷらす）」をはじめよう！！

マイバッグ、マイボトル・マイ箸の利用、レンタル・中古品の利用や必要な量だけ購入して過度な消費を抑えることに加えて、簡易包装製品の選択、食べきり・食材の使いきり・生ごみの水きりなど、生活の中で身近にできることはたくさんあります。

みんなで、「3R+（プラス）」に取り組みましょう！！

3R+（ぷらす）の取組例

凡例： ... 県民
 ... 事業者

これまでの3R	取組例
リデュース（発生抑制）	マイバッグやマイボトルの持参 過剰包装の廃止
リユース（再使用）	フリーマーケット・リサイクルショップの利用 リターナブル容器の導入
リサイクル（再生利用）	分別排出の徹底や店頭回収への協力 回収ボックスの設置

+ プラス

3Rに+（ぷらす）	取組例
リフューズ（断る）	レジ袋・割り箸の辞退 不要な販促品の廃止
リペア（修理）	修理業者の利用 修理部品の長期供給
リフォーム（改修）	住宅の改修や家具の修繕
リメイク（作り直し）	着物のリメイク 廃材等をノベルティグッズへ活用
リターン（返却・回収）	容器の返却
リニューアブル（再生可能資源）	竹等のプラスチックの代替素材を用いた商品の選択



リフューズ Refuse



必要ないものは断る

リメイク Remake



使い終わったものを作り替える

リニューアブル Renewable



プラスチック製から竹製へ

豊かな里海づくりに向けて！ほうふ里海づくり協議会の取組

近年、地球温暖化による海水温上昇、植食性魚類による食害、沿岸環境の悪化などから、沿岸海域等で海藻が著しく減少・消失するいわゆる「磯焼け」が深刻化しています。

「ほうふ里海づくり協議会」では、豊かな海を守る持続可能な里海づくりに向けて、銑鉄藻礁を用いた藻場づくりと食害魚のアイゴを「減らす」、「活用する」、「学ぶ」の3つのステップからなる磯焼け対策を両輪とした『防府アイゴプロジェクト』を推進しておられますので紹介します。

藻場づくりとブルーカーボンクレジットの創出

令和4年度から、防府市の特産品である銑物を使った「組み立て式銑鉄藻礁」を防府市の海域3か所(42基)に設置され、藻場造成を行っています。銑物を使った藻礁の設置は防府市では初の取組であり、繁殖した海藻が吸収したCO₂により、令和5年度は、0.3t、7年度は1tのブルーカーボンクレジットの認証を取得するなど着実に成果が挙がっています。

アイゴを減らす

また、アイゴによる食害を緩和し、藻場再生に貢献するため、回遊魚であるアイゴの生態について大学と連携して環境DNAを用いた調査を実施し、この結果に基づき効果的なアイゴの捕獲方法を検討するなど、漁業者が無理なく捕獲できる取組が進められています。

アイゴの活用＜商品開発＞

アイゴは一般に食べ慣れていませんが、処理を間違えなければ美味しくいただける魚です。活魚は臭みを除去して高品質商品として防府市内の食堂や企業等へ販売し、へい死魚は、餌料、肥料としてミール会社に提供するなど、資源として無駄なく活用することで、販売拡大を図るとともに、試食会での提供を通じたPRや理解促進など藻場保全に向けてアイゴの利用拡大に取り組まれています。

普及啓発＜学ぶ＞

「海底湧水を使った塩づくり」、「アイゴタコス教室」などの親子ワークショップや瀬戸内海広域でアイゴに取り組む団体と交流する「瀬戸内海アイゴサミット」など、様々なワークショップや研修プログラムを開催されており、地域全体で豊かな瀬戸内海を守る土壌づくりを目指しておられます。

ぜひ、皆さんもアイゴを美味しく食べて、豊かな海を守る活動に参加してみませんか！



銑鉄藻礁



アイゴタコスをつくらう



アイゴ



様々なワークショップやシンポジウムの開催



ほうふ里海づくり協議会

構成：山口県漁業協同組合吉佐統括支店、(一社)銑田籠工法協会、うみのまちづくり(株)
問合せ：0835-22-9112 (山口県漁業協同組合吉佐統括支店)

イベントのお知らせ

こどものためのワークショップ博覧会

ワークショップコレクション in やまぐち2026

日時 11月14日(土)・15日(日) 10:00~15:00

場所 YMfg維新セミナーパーク

☆つくる、学ぶ、体験する、2日間で約50コンテンツが展出！
☆クラフト工作や実験、プログラミング体験などが大集合！
☆みんなの「わくわく！」「ときどき！」「おもしろい！」
という気持ちを応援します！

主催：ワークショップコレクションinやまぐち実行委員会
(山口県新たな時代の人づくり推進ネットワーク)



公益財団法人山口県ひとづくり財団

県民学習部

環境学習推進センター



地域ESD活動推進拠点

〒754-0893

山口市秋穂二島1062(YMfg維新セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

E-Mail kangaku@hito21.jp

<https://yamaguchi-learning.com/>

環境学習のひろば

検索